

# 実習室の紹介



NAGOYA UNIVERSITY

作業療法学専攻の学生が使う実習室の一部を紹介します。

## 日常生活活動・実習室

日常生活活動・実習室には、ベッドや車いす、自助具などが備わっています。「生活行動作業療法学実習」などの科目で使われており、障害を持った方の日常生活を支援するための技能を学びます。脳卒中の後遺症で運動麻痺が残った方や高齢者の中には、座ったり、車いすからベッドに乗り移ったりすることが困難な場合があります。そのような方々の、座る、乗り移るといった動作を支援する技能を、実習を通して学びます。

また、障害を持った方でも、食事や着替えといった日常生活活動が行いやすくなるように工夫した道具（自助具）について、実際のものを見たり、使用したりしながら学ぶことができます。



車いすへ安楽に乗り移りするための支援技能を学びます(上写真)。  
柄が握りやすいスプーンと、深底ですくいやすい皿です(自助具:左写真)。

## 作業療法実習室

主に「発達障害・地域治療学ⅠⅡ」という科目や、発達障害領域に関する研究で使われています。部屋の中には、感覚統合療法に使用されるスイング、ボールプール、トンネル、バランスボールなどの遊具が設置されています。また、発達障害領域で使用される各種検査道具も数多く揃えられ、実際の道具を使いながら作業療法の評価について学ぶことができるようになっています。その他、子どもたちの発達を学ぶために必要なおもちゃなども置いてあります。



各種発達検査のマニュアルや評価シートが備わっています。



スイングやボールプールなど治療に使われる遊具を体験しながら学ぶことができます。

## 手工芸実習室

手工芸実習室は、主に「作業学ⅠⅡ実習」や「治療応用作業学」という科目で使います。作業学実習では、陶芸や革細工といった、作業療法で伝統的に用いられている手工芸の技能を学びます。実習では、陶芸や革細工の専門家を学部講師として招き、基本技術を学びながら、大学教員の指導のもと手工芸を作業療法として活用する方法について理解を深めていきます。

手工芸実習室は、「装具作業療法学」という科目でも使います。病気や怪我により手に障害を負った方の支援の一つに装具療法があります。日々刻々と変化する患部の状態に対応できるように、知識や装具作成技能を学びます。

写真は、腱損傷の手術後の方を想定して、作業療法で用いる装具を作成している様子です。解剖学、運動学といった基礎医学の知識が必要となる、専門性の高い支援技術です。



装具作成の様子



陶芸窯



革細工の道具

## 環境適応行動観察室・実験室

静穏な環境が整っており、「卒業研究」で実験をする場合などに使用されています。注意機能や聴覚機能を調べたり、集中できる環境の中で被検者に課題を行ってもらったりできます。重心動揺計や圧分布測定センサー、眼球運動測定装置、筋電計といった機器が備わっており、ビデオカメラと上記の機器を同期させて計測することや、複数台のビデオカメラで撮影した動画を三次元的に解析したりすることができます。マジックミラーも設置されており、行動観察系の実験にも利用できます。



静穏な環境で実験を行うことができます。



重心動揺計(左)は立っている時の身体の揺れを計測して記録できます。  
眼球運動測定装置(右)は各場面での目の動きを追跡して記録できます。